

第12回小平市史編さん委員会要録

1. 日 時 平成24年6月23日（土） 午後3時00分～午後4時15分
2. 会 場 中央図書館会議室
3. 出席者 市史編さん委員 7名（欠席2名）、事務局10名（うち調査専門委員6名）
4. 傍聴者 2名
5. 会議次第
 - （1）開 会
 - （2）部長挨拶
 - （3）委員長挨拶
 - （4）報 告
 - （5）議 事
 - （6）閉 会
6. 報 告
 - （1）平成23年度 市史編さん事業実績報告について
 - （2）平成24年度 市史編さん事業スケジュールについて
 - （3）近世編の印刷製本スケジュールについて
 - （4）小平市史別冊 図録及び写真集の目次構成（案）について
7. 議 事
 - （1）地理・考古・民俗編の執筆内容の確認について
 - （2）近現代編の執筆状況について
8. 閉 会

【配布資料】

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 資料1 | 平成23年度 市史編さん事業実績報告書 |
| 資料2 | 平成24年度 市史編さん事業スケジュール |
| 資料3 | 近世編 印刷製本スケジュール表 |
| 資料4 | 小平市史別冊『図録』目次構成（案）について |
| 資料5 | 小平市史別冊『写真集』目次構成（案）について |
| 資料6 | 地理・考古・民俗編の細目次（案） |
| 資料7 | 地理・考古・民俗編の見本原稿 [民俗編 I章 半世紀の変容と民俗] |
| 資料8 | 『小平市史 近現代編』目次案（章／節／項） |

<会議の概要>

1 開 会

2 部長挨拶

早いもので、市制施行50周年の年度も第1四半期を終えようとしていますが、この間、記念事業の最初のイベントでありました「全日本花いっぱい小平大会」が、5月21日にルネこだいらで開催されました。その式典には約1,100名の市民の方々がお集まりいただきました。また、翌日には中央公園におきまして、グリーンフェスティバルが行われ、7,000名もの方々が参加され、緑豊かな街をテーマにした小平らしい素晴らしいイベントが行われました。また、このプロジェクトを推進した市民の方たちの継続した花植えの活動が行われており、今後とも、更にこのような環が広がっていくことを期待しているところです。

さて、市史編さん事業は、委員長のひとかたならないご尽力により、近世編の原稿がとりまとめられ、現在、校正作業が進行しているところです。市長以下理事者と、部長全員で構成されております「市史編さん推進本部会議」では、5月中旬から下旬にかけて、近世編の原稿に目を通ささせていただきました。大変読みやすく配慮されていると感じました。同時に、「こうした節目に小平の歴史を確認する行為は大変意義深い。」と、市長が感想を漏らしておりました。

監修者や執筆者の皆さまには大変ご尽力をいただいているところですが、本編の刊行に向けて最終段階に差し掛かっています。どうか引き続きよろしくお願い申し上げます。

本日の会議でも、今後に向けて、委員の皆さまから更なるご指導、ご意見を頂ければと思います。

3 委員長挨拶

いよいよ具体的な編さん作業が始まりました。始まったからには、何としても立派に作り上げなければなりません。執筆者の方々にとっては、原稿の作成など大変なことが多いかと思いますが、刊行に向けて、ご協力の程よろしくお願いします。

4 報 告

- (1) 平成23年度 市史編さん事業実績報告について
- (2) 平成24年度 市史編さん事業スケジュールについて
- (3) 近世編の印刷製本スケジュールについて
- (4) 小平市史別冊 図録及び写真集の目次構成(案)について

事務局： 配布資料の確認の後、配布資料に基づき上記4件を報告。平成23年度の事業実績報告を行い、平成24年度の市史編さん事業のスケジュール

ルを確認した。続いて、5月に印刷契約した近世編の校正スケジュールを報告し、最後に、平成25年3月に刊行を予定している「図録」と「写真集」について、目次構成（案）を説明し理解を得た。

質問等： 近世編の印刷・製本について、①契約業者名、②契約業者の自治体史の印刷・製本実績、③校正段階での校正専門家の有無、④販売予定価格、⑤他編の契約方法。

事務局： ①契約業者は、市内の㈱アトミ印刷。②東久留米市近代史の印刷実績がある。③業務仕様書のなかに、「校正の専門的知識を有する者を置く」ことを明記した。④価格は、現時点では未定。近現代編、地理・考古・民俗編の印刷費が決まった段階で、近世編を含めた3編について、価格バランスを考慮した設定を検討したい。⑤他編の契約は、競争入札を予定している。

質問等： 市史別冊の図録、写真集について、①これらは、事務局主導で作成するのか。編さん委員会は関与しないのか。②市史編さん刊行物の中でも、図録、写真集は、市民が最も読みたい冊子だと思う。作成部数が1千部では少なくないのか。

事務局： ①市史本編は編さん委員会が編集を行っているが、市史別冊はこれと異なり事務局で編集を行う。編さん委員会には内容等を報告したい。②部数については、検討したい。

5 議 事

(1) 地理・考古・民俗編の執筆内容の確認について

監修者： 細目次については、配布資料のとおり予定している。また、見本原稿を示した。地理・考古・民俗編は、日程的に校正作業に余裕を持って望みたい。具体的には、原稿の手直しなど様々な事態に対応できるように、12月末までに第三回目の校正を終えるようにしたい。また、執筆原稿はほぼ集まっており、7月20日ごろまでに監修を終えてまとめたい。この編の特色として、図版が多いことが挙げられる。しっかりした印刷業者をお願いしたい。

地理編執筆者： 地理編では、窪地、井戸水、立川断層などに重点を置くとともに、図版を多用した。市民に関心がある自然災害についても触れた。

質問等： 表記を統一し、他の編と同じようにするのか。

監修者： 基本的には、他の編と同じだが、数字の表記が難しい。出来るだけ読者が読みやすい表記にしたい。特に、章立ての数字は、ローマ数字を使う予定で、アラビア数字を使用している他の編とは異なる。ローマ数字を使うことによって、節、項の数字と明確に区別ができて見やすくして良

いと考えた。

委員長： 章立ての数字が他編と異なるようだが、市民にとって見やすいように、他編と統一した表記ができないか検討してほしい。

地理・考古・民俗編については、監修者を中心に、配布資料のような細目次及び執筆内容で進めることに、異議なしと認めました。

(2) 近現代編の執筆状況について

監修者： 配布資料に基づき説明。近現代編は2月から執筆を行っている。執筆者が多いため、執筆者全員が出席した打合せ会議を数回開催し、担当者間の調整を行っている。8月中には原稿のバラつきの調整を終え、9月から監修作業に入りたい。

委員長： 近現代編は、今後とも十分な内部調整を行って、日程どおり実施していただきたいと思います。

6 閉 会